

## 入選

### 帰りのバスの新発見！

長野県 丸子中央小学校

六年 澤山 りん

ある夏の帰りのバスでのことです。

いつものようにバスに乗ると、バスの中は、1年生から5年生まで、小さい子も、大きい子も入り乱れていました。私が（またかあ）と思いながら、

「みんな、自分の席にもどって。」

と言っても、「〇〇くんは、すわってないよ」「二人ですわれないといや」などと、聞かない人がいました。

もちろん、聞いてくれる人もいます。でも、それもごくわずかの人たちでした。

（もう、だめかなあ。）

そう思ったとき、ある別の声が聞こえました。

「はあーい、みんな、席にもどって！」

大きくて、明るい声でした。そう呼びかけたのは、私と同じクラスの、晴陽さんでした。まるでその声は、「鶴の一声」のようで、うるさくあれていたバスの中に、だんだん静かな空気をもどってきました。その日の帰りのバスは、そのまま、無事に出発していきました。

ですが別の日、その日は終業式の前日で、みんなの荷物がだんだんと増えてきたときのことで、バスの座席はせまいので、当然のことながら、自分の席に荷物が乗りきらない人が出てきてしまいます。この日は、2年生の子が、ペットボトルのいかだを持ち帰ろうとしていました。

ところが、幅が50センチメートルほどもあり、乗りきりません。私は（乗せるのは、無理かなあ）と思いました。ですが、これを見ていた晴陽さんが、あずかってくれたりしていました。

また、バスのルールを破っていたり、まわりの人が困ってしまうことをしている人たちには、晴陽さんは、迷ったり、おじけづくこともなく、自分の意見で相手を説得しようと努力したり、ときには、たくさん注意をしたりしていました。

私は、「親切」とは、人にやさしいことをすることだと思っていました。でも、近くにいる晴陽さんを見ていて、新しい「親切」を見つけることができました。

晴陽さんが教えてくれた「親切」というのは、「やってはいけないこと」や「人がされたら困ってしまうこと」が起きる前に、「これは、やってはいけない」「こんなことをすると、自分以外の人が困ってしまう」ということを知らない人に、「自分が教えてあげる」というものです。

いつかはわからないけれど、私はいつか、晴陽さんの「親切」にかたをならべられるような親切をして、そのまたいつか、晴陽さんを追いこすような親切ができるようになりたいです。